

らしんばん



議会報告

令和5年6月議会号



発行日 / 令和5年7月20日

発行：静岡県議会議員 鈴木すみよし事務所

目次	ハイライト	P1
	1. 県議会6月定例会開催(概要説明)	P1
	2. 常任委員会(厚生委員会)の論戦から	P2
	3. 初の議長席に座って見る景色	P2・3
	4. 物価高騰支援策の詳細	P3
	5. 熱海市伊豆山の土石流災害から2年	P4
	6. 視察・研究報告、国へ提出される意見書	P4
	7. 地域の課題と進捗状況、ホットなつぶやき	P4



今年当選した全県議会議員が本館前で集合写真撮影。正副知事、正副議長が最前列中央にならび、襟を正す。

ハイライト



5月19日の臨時議会にて第122代静岡県議会副議長に就任が決まり、その挨拶はテレビでも放映。



副議長就任後間もなく、東海北陸7県の正副議長会が金沢市で開催され出席。隣接県と関係を密に。



韓国忠清南道と本県が友好提携10周年を迎えた。記念式典では県議会代表として出席。挨拶もあり。



今年から県におけるCNFの新たな取組がスタート。需要拡大と循環型素材を目指し産官学の連携強化。



6月2日に発生した富士市江尾地区の水害対策を進めるために、自民党静岡県連幹事長等が現地視察。

1. 県議会6月定例会開催(概要説明) 【6月23日～7月12日まで】

県議会議員4期目を迎えました。また、5月19日の臨時議会にて、第122代静岡県議会副議長に選出され、責任の大きさを痛感する日々が続いています。

本定例会は、私にとっては副議長として初めて議長席に座り、本会議の議事進行を行うなど、緊張した定例会でした。

また、本定例会最終日には50年ぶりに知事に対する不信任決議案が私の所属する会派から提出されました。その提出に至るまでは、会派所属議員の塾考が重ねられ、議論を尽くした上で提出に踏み切りました。残念ながら不信任決議案は否決され、閉会となったのは午前1時を過ぎ、このようなことも県議会議員になってから初めての経験です。

上程された令和5年度静岡県一般会計補正予算ほか、条例関係、土木・建設請負工事等の議案は、全て全会一致で採択されています。

物価高騰対策等は最優先で取り組むべき課題であることから、6月定例会の冒頭で優先的に審査(先議)し採決して、既にその関連事業に着手しています。

不信任決議案提出の理由は、これまで何回も繰り返してきた知事の不適切発言があり、特に2021年10月の参議院議員静岡選挙区補欠選挙において問題となった「コシヒカリ発言」を巡り、議会では臨時会が開会され、知事辞職勧告決議案が賛成多数で採択される事態になりました。知事はこの日の記者会見で、給与と期末手当を返上することを表明したものの、それを実行せず現在に至っています。

6月定例会の総務委員会では知事発言を確認する質疑が行われ、答弁者の県職員の内容と知事の発言には不一致が認められ、これらのやりとりを検証した結果、「県政に混乱を招き、静岡県のイメージを悪化させた。」ことなどを理由に不信任決議案提出に踏み切りました。しかし、結果は、規定では議員数の3分の2以上が出席し、4分の3の賛成が必要ですが、全議員68人が出席し、不信任決議案賛成に必要な出席議員数の4分の3となる51人に1人不足、否決となりました。

いわゆる知事与党会派は18人で結束し、それ以外には私の会派40人を始め公明党・無所属を加え50人であることから、このような結果となりました。

県議会の中では、このような知事の不適切発言とそれを追求する議会の衝突を何度も繰り返してきました。知事はその都度改めるといいながら、一向にその言葉通りにはなりません。このような不毛な議論は早く辞め、本県にとって喫緊の課題は山積しており、そこに注力すべきなのに残念でなりません。

否決となりましたが、法的拘束力を持つ伝家の宝刀を抜いて解消できるのか、早くこの状況を脱したいと考えるのは多くの県民も望んでいるはずで

今年度は、県議会厚生委員会に所属し、副議長に就任



2. 常任委員会(厚生委員会)の論戦から(質問項目概要)



今年度の医療・福祉分野の7つの柱の主な取組は、以下の通りです。

- ① **安全・安心な生活を支える危機管理**では、新型コロナウイルス感染症への対応（感染者受入病床の確保、入院治療等に係る医療時自己負担分公費負担等）や、ふじのくに感染症管理センターの整備。
- ② **医療供給体制の確保・充実と健康寿命の延伸**については、医療人材の確保・適正配置等による地域の医療供給体制の確保や科学的知見に基づく生活習慣病予防の推進。
- ③ **いつまでも自分らしく暮らせる長寿社会づくり**では、地域包括ケアを支える人材の確保・育成と介護職場におけるICT化等の推進に対する支援。
- ④ **障害のある人が分け隔てられない共生社会の実現**では、福産品購入企業等の認定制度創設、福祉の農業分野が連携した就労マッチングや農産物、加工品のブランド化等および、医療的ケア児等支援センターの運営等。
- ⑤ **誰もが理解し合い地域で支え合う安心社会づくり**では、生活困窮者等に対する就労支援や自立相談支援員向けヘルプデスクの設置等および、LINE相談やWEBメディアを活用した若年層向け自殺対策の強化。
- ⑥ **結婚の希望をかなえ、安心して出産や子育てができる環境づくり**では、保育施設における勤務環境向上、就労継続や現場復帰への支

援等及び、保育総合相談窓口の設置、保育施設に対する無通告の指導監査等。

- ⑦ **すべての子どもが大切にされる社会づくり**では、ヤングケアラーの早期発見・支援の強化やピアサポート等の支援体制構築および、子ども食堂等の子どもの居場所づくりを行う団体の支援などがあります。

私は、医師確保対策と薬物乱用対策の取組などについて質問しています。

医師確保対策では、本県自体が全国的に見て下位にある医師が少ない少数県ですが、県内でも国が医師少数区域と区分している富士医療圏などに対するきめ細やかな支援策について触れ、現状や対策、課題等について確認するとともに、地域毎の個別の医師確保目標を立てて対策を講じるよう求めました。

また、**薬物乱用対策**では、若者の薬物乱用が増加し、大きな懸念となっていることから、若者目線で薬物に対する正しい情報や危険性などを訴えるために、若者自身がSNS発信や講師となって同年代に伝えていく仕組みの強化などを提案しました。

新型コロナウイルス感染症はなくなったわけではなく、第9波もささやかれています。これまでの知見を生かし、感染症対策を万全にすることが重要です。

保育の現場の課題が大きく浮き彫りになった今、大所高所から問題を分析し、再発防止とともに保育現場の職員に対する負荷軽減や処遇改善などが喫緊の課題であり、速やかに対策を講じていく必要があります。

3. 初の議長席に座って見る景色

私にとっては副議長に就任して初の議長席での議事進行を務めさせていただいています。



副議長に就任後初めて6月定例会本会議において、議長席で議事進行を担う。この感動と初心を忘れず、職責を全うしたい。

議長席は議場の最奥部の少し高い場所に設置され、県議会議員と対面し、知事をはじめとする県執行部が議長席の両脇に左右に分かれて議員側を向き、それぞれ配置されています。

また、県議席の後方上段には傍聴席があり、議長席は議場の全てが見られる位置にあることを身をもって体験しました。

当県議会では、本会議の議事進行は議長と副

議長が半日ずつ務めており、特に議長が他の公務と重なることも想定して、正副議長どちらかが議会運営に支障がないように対応しているように思えます。

従って、その責務は同等で、私が議長席に座ったときには、議長としてその采配を振ることになります。各議員が発言を求める冒頭には「議長」と声をかける慣わしで、一議員として何回も繰り返してきたことであり、細かなことではありますが、副議長になったことで議長席に座り議事進行を進めることにより気付いたことでもあります。

私の議長席デビューは6月28日の午後、代表質問の議事進行からです。本会議開会5分前には予鈴が鳴り、議員や知事を始め関係者が議場に入り始めます。私は本会議場の裏にある小部屋に他の人たちと少し遅れて入り、全員が着席するタイミングを見計らいます。

開会時間の本鈴が鳴ると同時に議長席の後ろの

扉から議場に入り、議長席に座り、一礼をして着座します。机上の資料を素早く目を通して議事進行に支障がないか確認し、代表質問を通告している議員を指名し、論戦が始まるという流れです。

副議長就任時に議事進行のリハーサルは実施していますが、その時は議場には誰もいませんでした。本番では全ての議員、県執行部、傍聴人、マスコミ関係者が揃い、その圧迫感は生涯忘れることはないでしょう。これまで何回か繰り返してきた自身の代表・一般質問のために壇上に立ったそれとは異なる感覚です。

質問者の説明が終わると、いよいよ知事等執行部の答弁が始まり、それに対する議員からの再質問など論戦が始まります。質問者と答弁者の指名などを繰り返し、答弁漏れがないかなど論戦のやりとりに注意を集中します。

気持ちに少しの余裕が出てくると、議場内の様子が目に入るようになりました。先ほども触

れましたが議長席の配置から、議場内の全ての様子が分かります。

特に傍聴している議員の動きには興味深いものがあり、県民の皆様から様々な評価をいただいていることが見えてきました。このことは、普段、議場内の自席に座っては見えない、感じにくい場面でもあります。

本会議以外の公務では、県内各市町や業界団体等からの議会要望の窓口や、県内各団体等の総会、式典等での来賓挨拶、全国都道府県議会議長会での会合等に出席する機会があります。

副議長就任の数日後には、本県と友好提携10周年を迎えた韓国忠清南道知事をはじめとする訪問団との式典に県議会代表として出席し、交流会ではご挨拶を申し上げます。

7月中には、東京での会議が6回ほどあり、首相官邸において岸田首相との懇談会にも本県代表として出席しています。

副議長の責を担う間、この初登壇の感動と初心を忘れず、責任を果たしていきたいと思えます。

4. 物価高騰支援策の詳細

	分類	支援内容
事業者支援	農林水産業	畜産農家及び養殖業者への飼料代の支援として、基準価格を超える飼料代の1/2以内を支給します。また、家畜共同育成場の飼料代の負担軽減も盛り込まれます。肥料については、以前の支援策が続いているのでそれも合わせて使えます。さらに、土地改良区等への電気料の支援（補助率10/10）があります。
	商工業	特別高圧電力を利用する中小企業者への電気料の支援。内訳は3.5円/kwh（4～8月利用分）、1.8円/kwh（9月利用分）となっています。
	地域交通事業者	維持修繕費の支援。（地域鉄道20万円/両、乗合バス5万円/台、タクシー2万円/台など）
	福祉等	物価高騰の影響を受ける医療・福祉・教育分野等の支援。（医療機関：病院・診療所・薬局ほか2万円/床、介護・障害：介護保険施設ほか2～4千円/人、保育所：保育所・認定こども園ほか1千円/人、児童福祉：児童養護施設ほか4千円/人、私立学校：幼稚園・小中高等学校・専修学校ほか1～5千円/人、その他：一般公衆浴場：5万円/施設）
	その他	宿泊業の経営力基盤強化のための人材確保支援。（マッチング・宿泊業務実習）
生活者支援	LPガス料金の負担軽減	販売業者に値引き原資を助成します。値引き額上限3千円/戸（500円/月・戸）
	子ども食堂	運営資金（5万円/箇所）
	県立学校	給食費の負担軽減など

6月補正予算額に盛り込まれた物価高対策は当面、9月定例会頃までを見込んでおり、この状況が改善されない場合は、9月補正予算も検討しなければなりません。

5. 熱海市伊豆山の土石流災害から2年

7月3日で熱海市伊豆山地区にて発生した土石流災害から2年が経過し、現場近くの伊豆山小学校にて犠牲者追悼式が行われ、犠牲になられた方の親族などとともに、私も静岡県議会代表として参列させていただきました。



追悼式の帰り道、災害現場を通過。改めて惨事の大きさを実感するとともに、早期復興に向けた取り組み強化を誓う。

熱海市の現場に立つと、土石流災害が発生した時の市民が撮影した映像と撮影者の恐怖におののく声は、強く脳裏に焼き付いています。これが現実とはとても思えないような土石流の激しさとそれに飲み込まれている住宅などは、これまで報道などで見てきた災害現場の映像の中でも、最も恐ろしく誰もが初めて目にしたものと思います。

被災後には、県議会建設委員会として現地調査などを行いました。土石流災害の発端となった源頭部から見た土砂の崩落状況は、明らかに人災としての無秩序な結果であり怒りさえこみ上げてきました。二度とこのようなことがあってはならないと思いつつも、この事故を契機に県が調査した県内各地の同様な盛土による危険箇所の多さには、極度の危機感さえ覚えました。県は盛土に関する制度の甘さや盲点を払拭するために、厳格な規制を盛り込んだ盛土条例など制定し、国も県以上の厳しい法を整備して運用しています。

一方で、既存の危険箇所については、早急に対策を講じなければなりません。地権者や事業者の中には責任を放棄し、特に危険な箇所については県が代執行で対応するケースも増えています。

◆6月議会で決定した国へ提出される意見書

- ① 頻発化する線状降水帯の発生に対する災害復旧事業の強化を求める意見書
- ② 国民皆歯科健診の実現を求める意見書
- ③ 保育士の配置基準の見直し及び処遇改善を求める意見書
- ④ 新型コロナウイルス感染症の後遺症に対する取組の強化を求める意見書
- ⑤ 特別支援学校・学級等への教員等の適切な配置を求める意見書

♥ホットなつぶやき

県議4期目を迎えました。少子化対策は待ったなし。ここ数年が勝負です。激甚災害、ポストコロナや物価高騰など、社会情勢が大きく変化する時代の地方政治の重責を自覚し取り組みます。

県政相談窓口 ♥お気軽にどうぞ！

地域の課題、道路・河川等の整備等についてのご相談窓口です。ご相談いただいた内容については、必要に応じ関係機関と調整しますが、内容に応じてお時間がかかることもありますので、ご容赦下さい。

熱海市の土石流発生原因やそれを防ぐことができなかった県や市の責任は大変重く、検証が十分ではなく、今後も更に調査を進めていくことが求められています。県議会としても問題点を明らかにするための責任を果たすために、取り組んでいかなければなりません。

熱海市土石流災害では、28人の尊い命が奪われ、多くの財産が失われました。いまだ124世帯の217人が避難生活を強いられています。9月1日には立ち入り禁止区域の解除も予定されており、復興は少しずつ動き始めましたが、今後は更に支援策も強化し、加速していく必要があります。

6. 議会外の視察・研究報告



6月、東京で開催された富士山世界文化遺産登録10周年記念式典に参加。登録にご尽力いただいた皆様とともに。



全国都道府県議会議長会の社会文教委員会にて医療や福祉に関する課題を取り上げ、省庁に提言する原案審査。

7. 地域の課題と進捗状況 (各地の要望等から)



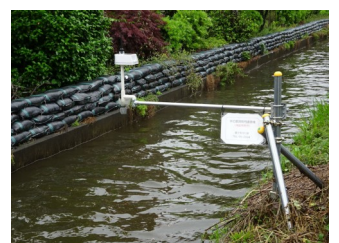
富士市からの県要望の結果や喫緊の課題等について、市長や市幹部から説明を聞く。市政の現状を確認する機会。



コロナ禍で中止していた吉原音楽祭が久しぶりに開催。まちなかの癒やしスポットには和やかな時間が流れていた。



6月2日の線状降水帯による大雨では、2年前に続き江尾地区の一部が床上浸水に。早期の対策に県と市を奔走。



富士市水防団から要請された水位観測のためのカメラや水位計設置が須津地区河川をモデル地域に指定し実現。

発行者：静岡県議会議員 鈴木すみよし事務所

「県政相談窓口」および「らしんばん」連絡先

静岡県富士市比奈1418番地の2〒417-0847

☎ 0545-34-0683 FAX.0545-38-0070

メールアドレス himena@tokai.or.jp

ホームページ <http://sumiyoshi.info/>

ブログ <http://blog.goo.ne.jp/sumiyoshi1956/>

最新情報はこちらから→

